



「僕と音楽」



日野中学校 三年 伊賀 隆太郎

僕にとって音楽は人生そのものでした。そんな数年しか生きてないような学生が言うのもおかしいけど、今までたくさんさんの音楽に救われました。

僕は小学校からサッカーをはじめ、うまくなりたくて中学校からクラブチームにも入りました。でもクラブチームの人たちとうまくなじめず、人間関係で悩む日々が続きました。楽しかったはずのサッカーもただっらいばかりで、練習に行くのも嫌になってきました。

そんな時小学校からの友人に一つの音楽を聴かせてもらいました。それが僕と音楽との出会いでした。それまではCMの歌を口ずさむぐらいだった僕に、初めての感覚が体を走りました。今までのつらかったことなどが体から抜けていって、音楽に魅了されてしまったのです。それからは暇があると音楽を聴くようになってきました。つらいときも悲しいときも、僕はずっと音楽というものに救われてきました。聞きながらバンドのまねごとをしているうちに、どんどん演奏することへの興味が湧いてきて中学二年生になった頃、友人がドラムを買

ったことがきっかけでついにバンドを組むことになりました。

最初はまねごとぐらいでしたが、地元の公民館の夏のイベント、ライブをするから出てみないかと誘われました。公民館にはアンプやドラムがあり、ぼくは友人から借りたギターで毎日練習することができました。そして夏休み念願のギターを購入しました。その時の嬉しさは一生忘れられないと思います。練習を繰り返す中で友人やバンドのメンバーも増え、九月には公民館のコンサートに出させていただきました。みんなの前で下手ながら一生懸命演奏したことは、二つ目の忘れられない思い出となりました。

それから何回もライブを聴きにいき、音楽をとおして友人が増えていきました。

それが自信となって、学校での自分も変わっていきました。どんどん自分から色々な事に立候補するようになってきました。人前で話すことにも抵抗がなくなり、音楽部の活動に進んで参加したり、人間関係を気にすることがなくなりました。みんなで歌う楽しさや、みんなで何かを作り上げていく喜びを感じることも、多くのことを学ぶことができました。音楽を通して自分が変わっていくのを感じた今、ぜひ、他の人にもこの事を伝えていきたいと思っています。音楽は常にみんなの側にあり、どんなに心を癒すものであるか。またみんなの気持ちを一つに結び

つけることも出来、言葉でうまく伝えられないことでも、音で表現することも出来るということ。

今、僕はバンドの仲間と色々な曲を演奏しています。中学校三年生という時期は、高校受験を前にして色々悩む時期でもあります。僕自身もどういった方面に進んでいくべきか迷っています。でもどういった方面に進んでいっても、僕は音楽をやめることはないと思っています。

音楽に救われた僕が、今度は周りの人に音楽の楽しさを伝えていきたいと強く思っています。以前の僕のように悩んでいる人が少しでも音楽で救われる事を望んでいます。

知らない人とも音楽を通して分かり合える、そんな経験をこれからも積み重ねて、自分に出来ることを探していきたいと思っています。また機会があれば僕たちのバンドの演奏を聴きにきてください。すこしでも音楽の楽しさを伝えられたら嬉しいです。

